

会 長 に 就 任 し て

小 川 正 二*

この度、平成元年度総会において新潟応用地質研究会の会長に選出されましたことは私にとって光栄の至りであると感謝致しております。

なにしろ、地質に関係する勉強をしたのは、学生時代の一般教養科目の「地学」の講義を聴いただけですので、地質学に関しては全くの素人の小生がこの様な大役を受けるのは分不相応なのですが、地質と土質の分野の関連性を持つ上で少しでも役立つことが出来ればとお引受けした次第です。

土質工学の分野は大別すると「自然の土を対象とする分野」と「土を材料として扱う分野」の2つになります。しかし、後者の分野の問題を扱う際にも常に前者の問題が関連してきます。また、地盤の上に造られる橋梁やビルディングあるいは地中埋設管などの挙動は必ず自然地盤の上に設置される構造物であり、「自然の土としての地盤の影響」を抜きにして土木構造物等は考えられません。

このようにしてみると、土木工学で扱う分野は必ず地盤の特性に影響を受ける事になります。一方、このような地盤の生成は地質の分野と密接な関係を有していることであり、地質の概念を無視しては成り立ちません。

私の学生時代の研究ではテーマの関係もあり、全く「地質」の概念を含んでいませんでした。しかしその後、羽越水害、新潟地震、日本海中部沖地震、地すべり、凍上現象と種々の災害調査をするにつれて、各種の現象が単に土質工学の考え方では処理出来ないことを痛切に感じるようになりました。このような感じ方をしたのは私一人だけであると思いませんが、現実には「地質」と「土質」の両分野が全く別の道を歩いているように感じられて仕方ありません。

新潟応用地質研究会がいち早くこの点に注目して発足していたということは会員の皆様の弛みない努力の成果の表れであると思います。

このような会の会長として微力な私が何の役にも立たないかも知れませんが、「地質」と「土質」を含み、また合致させた新分野を確立すべく努力してゆきたいと存じますので宜しくお願い致します。

* 長岡技術科学大学